

心不全のくすり超入門

なんで？をなるほど！に変える本

監：池田聡司

著：坂元利彰

薬剤への苦手意識が
「わかる!」にかわる一冊

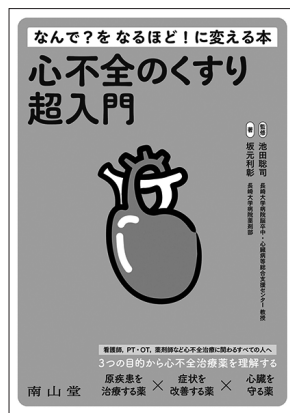
病棟で「心不全の患者さんが再入院です」と聞くと、複雑な病態や多岐にわたる薬剤を前に、少し身構えてしまうことはないだろうか。刻々と変化する病態、検査値、バイタルサイン。そして数多くの薬剤……。『どの薬が何の目的で?』と一つひとつを理解するだけでも一苦労である。

本書は、そのような薬剤への苦手意識を解消してくれる心強い味方である。特徴は、心不全の病態生理から丁寧に解説したうえで、多岐にわたる心不全治療薬を以下の3つの目的に沿って分類している点にある。

「原疾患を治療する薬」「症状を改善する薬」「心臓を守る薬」この構成により、一つひとつの薬の役割が明確になり、複雑にみえた知識が驚くほど自然に整理されていく。各項目は要点がコンパクトにまとめられており、「そういうことだったのか!」と腑に落ちる瞬間が何度も訪れるだろう。

そして本書の最大の魅力は、その徹底した読者目線である。第1章の「心不全の病態からみた治療薬」の冒頭で「心不全の薬—ハードル高すぎ問題」を取り上げ、私たちが感じる「ハードルが高い!」という心の叫びを代弁してくれることで、読者の気持ちを軽くしてくれる。そして「あなたの気持ち、わかりますよ」という温かいメッセージが、学びへの心理的な壁をそと取り払い、「一緒に心不全の患者さんをみていきましょう。薬についても一緒に考えていきましょう」という本書全体から伝わる著者の真摯な思いが、心不全治療への新たな一歩を踏み出す勇気を与えてくれる。

学びは薬剤の知識にとどまらない。最終章「心にすべてを」とのタイトルどおり、心不全治療の全体像の俯瞰から始まり、心臓リハビリテーション、そして患者さん



A5判／170頁

定価：3,300円（本体3,000円＋税10%）

発行：南山堂（2026年4月）

の「心」に語りかける患者指導の極意まで、心不全ケアの全体を俯瞰できる構成になっている。本書を読み進めていくうちに、点と点だった知識が確かな線で結ばれ、目の前の患者さんに必要な支援が具体的にイメージできるようになっているはずである。かつては苦手だった「心不全の患者さんが再入院です」という言葉に、今度は自信と使命感をもって向き合える自分に気づくことであろう。

心不全治療の第一歩を踏み出す若手の方はもちろん、苦手意識を克服したい方、知識を体系的に整理し直したいと考えるすべての方に、ぜひ手に取っていただきたい価値ある一冊である。

小倉記念病院 薬剤部 部長 町田 聖治